

交流集会：

日本フットケア・足病医学会に要望したい看護の未来 —全参加型で私たちの意見を交換しよう！—

司会 溝上 祐子 (公益社団法人 日本看護協会 認定看護師教育課程)
佐藤 勝彦 (医療法人札幌ハートセンター札幌心臓血管クリニック)

演者

- ① 石橋理津子 (佐賀大学附属病院 フットケア指導士/学会認定師)
- ② 愛甲美穂 (湘南鎌倉総合病院 フットケア指導士)
- ③ 松岡美木 (埼玉医科大学病院 皮膚・排泄ケア特定認定看護師/学会認定師)
- ④ 檜原直美 (済生会横浜市東部病院 糖尿病看護認定看護師)

一般社団法人日本フットケア学会と一般社団法人日本下肢救済・足病学会は2019年7月1日をもって合併し、日本フットケア・足病医学会となった。当学会の目的は「足に関するあらゆる疾患(足病)に携わる専門職種・業界が結集し、足病に対するフットケア、予防、診断、治療、教育、研究および技術の向上や標準化を図り、当該分野における医療を確立・普及させ、専門的知識の啓発および学術の発展に寄与すること」である。2020年2月現在、会員数は3,735名そのうち看護師は2,506名で67.1%を占めている。この学会の発展のためにはこの最も多い看護師が一丸となって学会の目的を達成するために活動推進していくことが必要である。

それぞれの旧学会に基盤を置いて活動してきた看護師は今回の合併によって、多くの不安や要望があると聞く。たとえばフットケア指導士と認定師の二つの資格が混在することによる今後の活用の不安やそれぞれの要件や更新、フォローアップへの要望などである。今回は看護師のそうした意見を交換する場として、交流集会を企画する。目的はこの新たに合併した新生学会において、看護師があらゆる場であらゆる立場でそれぞれの目指すべき道を確認でき、それぞれが学会の発展のため貢献するという意志を共有することである。情報提供のプレゼンターは、まさにあらゆる場であらゆる立場で活躍する4名の看護師にお願いした。多くの看護師が自分の目指すべき道が探れるのではないかと期待する。